



株主の皆さまへ

第43期中間報告書

2015.3.1 ~ 2015.8.31



イオンディライト株式会社

証券コード：9787

増収増益、過去最高益を更新

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第43期第2四半期連結累計期間（2015年3月1日～2015年8月31日）における業績と事業への取り組みにつきまして、ご説明いたします。



代表取締役社長
なかやま いっぺい
中山 一平

■ 経営環境

当第2四半期連結累計期間（2015年3月1日～2015年8月31日）は、国内において当社を含めた多くの企業で人手の不足感が一層高まりました。こうした中、当社では大型商業施設の活性化工事や大型物件の受託が増加しており、需要拡大に見合う人材の確保とサービスを提供する最前線で核となる人材を育成することが今後の成長に不可欠だと考えています。また、人手不足の傾向が今後も続くと予想される中、技術進歩が著しいセンサーや通信技術を活用したオペレーションの効率化・省人化など、従来の業務の在り方そのものの刷新が求められてくるものと認識しています。

中国・アセアンではこれまで成長を続けてきた経済の潮目が変わり、不動産市況や株式市況、為替相場等に変調を来すとといった動きが見られました。一方、中国を中心に経済構造が「輸出・製造」から「内需・サービス」へとシフトしていく中、これまで以上にサービスの質が問われることとなり当社の強みをより発揮できる新たな局面を迎えています。

■ 当期の業績

当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高1,427億83百万円（対前年同期比106.5%）、営業利益81億21百万円（同105.4%）、経常利益81億39百万円（同105.4%）、四半期純利益46億82百万円（同106.9%）となりました。

■ 当社グループの主な取り組み

・イオングループ外顧客の拡大

複数の医療関連施設、大学、ホテル、工場等へ新たにサービスの提

供を開始しました。とりわけ、病院・介護施設市場では、施設的美観を重視した従来の清掃に加え、除菌・殺菌といった感染対策を含めた衛生清掃を切り口に、大規模病院を中心に累計30件の病院で新たに清掃業務を受託しました。

・競争優位性の確立

当社グループは競争優位性をさらに強固なものとするため、昨年度より取り組みを実施してきた衛生清掃の機能強化に加え、新たな施設管理モデル構築に向けた取り組みを推進しました。衛生清掃事業では、より高度な衛生環境の提供を行うため清掃品質の可視化に取り組みました。具体的には、病院の手術室や集中治療室、工場のクリーンルームなど高度な清浄度が求められる場所に対し、空気中に浮遊する粉塵などの測定や、ATP測定法^(*)を用いた独自の評価基準づくりに着手しました。さらに自社で細菌やウィルスの検査・分析を行うための体制を整備しました。今後、医療関連施設で培った衛生清掃の感染対策技術は、東京オリンピックに向けて増加が見込まれるインバウンド需要も見据え、不特定多数が利用するホテルや大学などへの展開をめざしてまいります。

また、新たな施設管理モデル構築では、センサーと制御機器を照明・空調・冷凍冷蔵機などの各種設備機器に取り付け無線でネットワーク化することで、設備機器の状態をより細かに監視し、遠隔制御オペレーションを可能とする新事業モデル構築に向けた取り組みを進めました。さらに当社は、サービス品質の向上と新たな品質保持の仕組みの構築をめざし「品質保証部」を新設するとともに、アジアでの事業拡大に向けて「教育部」を新設し、グローバル人材の教育・育成機能を強化する体制を構築しました。

※ATP測定法：すべての生物の細胞内に存在するATP（アデノシン三リン酸）を酵素などと組み合わせることで発光させ、その発光量を測定する方法。

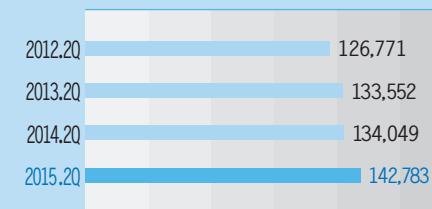
・アジアでの事業拡大

中国では新たに開業した大型商業施設にサービスの提供を開始するとともに、ガバナンス体制の強化を目的とした組織再編を実施しました。マレーシアではシェア拡大に向けた体制強化を行いました。ベトナムでは、新たにハノイ支店を開設し、事業エリアを拡大しました。それらの結果、海外事業での売上高は大幅に伸張しました。

【連結財務指標】

売上高

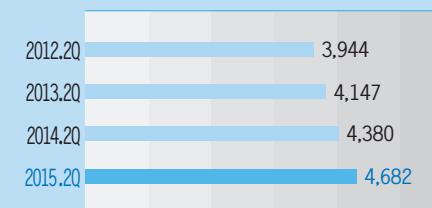
（単位：百万円）



営業利益

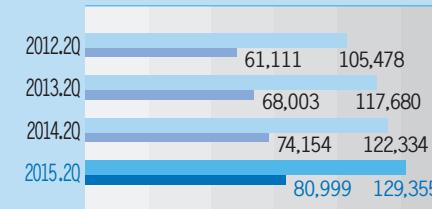


四半期純利益



総資産・純資産

■ 総資産 ■ 純資産



Consolidated Financial Sheets 連結財務諸表(要約)

	(百万円)	
連結貸借対照表	当第2四半期連結会計期間 2015年8月31日	前連結会計年度 2015年2月28日
(資産の部)		
I. 流動資産	108,128	104,477
II. 固定資産	21,226	21,567
有形固定資産	4,591	4,361
無形固定資産	10,860	10,937
投資その他の資産	5,774	6,268
資産合計	129,355	126,044
(負債の部)		
I. 流動負債	46,649	46,640
II. 固定負債	1,705	1,908
負債合計	48,355	48,549
(純資産の部)		
I. 株主資本		
資本金	3,238	3,238
資本剰余金	18,858	18,850
利益剰余金	55,783	52,388
自己株式	△ 442	△ 443
株主資本合計	77,437	74,032
II. その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,153	1,194
為替換算調整勘定	559	601
退職給付に係る調整累計額	△ 406	△ 422
その他の包括利益累計額合計	1,305	1,373
III. 新株予約権	226	166
IV. 少数株主持分	2,029	1,922
純資産合計	80,999	77,495
負債純資産合計	129,355	126,044

	(百万円)	
連結損益計算書	当第2四半期連結累計期間 2015年3月1日～ 2015年8月31日	前第2四半期連結累計期間 2014年3月1日～ 2014年8月31日
I. 売上高	142,783	134,049
II. 売上原価	124,185	116,770
売上総利益	18,598	17,278
III. 販売費及び一般管理費	10,476	9,575
営業利益	8,121	7,702
IV. 営業外収益	139	85
V. 営業外費用	121	62
経常利益	8,139	7,725
VI. 特別利益	160	15
VII. 特別損失	9	-
税金等調整前四半期純利益	8,290	7,740
法人税、住民税及び事業税	3,039	3,096
法人税等調整額	389	156
法人税等合計	3,429	3,252
少数株主損益調整前四半期純利益	4,860	4,487
少数株主利益	178	107
四半期純利益	4,682	4,380

	(百万円)	
連結キャッシュ・フロー計算書	当第2四半期連結累計期間 2015年3月1日～ 2015年8月31日	前第2四半期連結累計期間 2014年3月1日～ 2014年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,029	7,818
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,218	△ 3,977
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,380	△ 1,290
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 72	△ 31
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 2,642	2,518
現金及び現金同等物の期首残高	15,476	12,028
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,833	14,546

Column

衛生清掃 「清掃」と何が違うの？

近年、新型インフルエンザやノロウィルスの発生など感染に関する様々な問題が表面化する中、主に医療関連施設に向けて、従来の美観の維持を重視する「清掃」に加えて、感染対策を中心に据えたサービスを提供するのが「衛生清掃」です。今回は、衛生清掃のサービスについて3つのステップに沿って紹介します。



step 1 感染対策に特化した高性能ツール

除菌洗浄剤には、除菌効果が高く、対象面や作業員に対する安全性にも優れた活性化過酸化水素を使用。また、クロスやモップには汚れや微生物を99%除去できるウルトラマイクロファイバーを使用することで、一度の拭き取りで汚れはもちろん細菌類を除去します。

さらに、これら資機材の運搬には、赤・青・黄色

に色分けしたトローリーを使用することで使用後の資機材の交差汚染を防止しています。



(左) ウルトラマイクロファイバーのクロス
(右) 人体工学に基づくトローリー

(写真協力：シーバイエス株式会社)

step 2 安定したサービス品質を提供

衛生清掃の提供には清掃作業員への教育が不可欠です。当社では、OJT教育や独自の動画マニュアルによる作業の標準化に加えて、病院で働くことの意義、マナーや感染対策に関する教育を実施することで技術と品質を高めています。

step 3 清掃後資材の衛生的管理

清掃後の資材は、厚生労働省のガイドラインに基づき、80℃の熱湯で10分間の洗浄を実施。資材に付着した汚れと細菌類を落とします。完全乾燥後には活性化過酸化水素を事前に含ませることで次の作業までに発生する雑菌を防ぎます。



現在は、手術室清掃などの専門メニューも拡充し、衛生清掃のさらなる深耕に向けた取り組みも推進しています。今後は医療関連施設に留まらず、不特定多数が利用するホテルや大学などへの展開をめざしていきます。

Segment Information セグメント概況

イオンディライトの 総合FMS

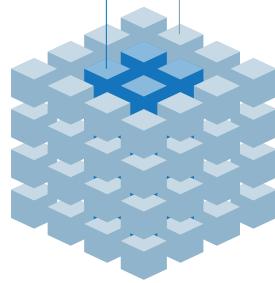


企業の経営基盤であるフ
企業を活性化し
イオンディライト
(ファシリティマネ

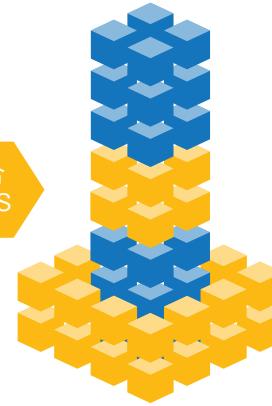
ァシリティを最大限に活用、
強い基盤をつくる
の「総合FMS
ジメントサービス」。

中核事業

ファシリティ業務



ファシリティ活用前



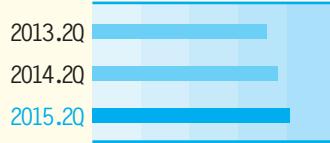
総合
FMS

ファシリティを最大限に活用

売上高
243億94百万円
(対前年同期比106.7%)

- 保守・点検業務の新規受託に加えて、フロン管理代行業務を1,300を超える物件で受託。
- お客様のコスト削減と各種設備のよりきめ細やかなコントロールを目的に新たな施設管理モデルの構築に着手。

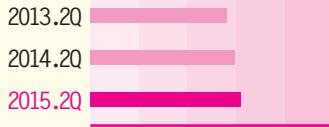
設備管理事業



売上高
186億00百万円
(対前年同期比104.3%)

- 新規施設の常駐警備に加えて、開業に伴う臨時警備の受託が増加。従来の施設内警備に接遇サービスを取り入れたアテンダーサービスの提案を進め、導入店舗数を36店舗に拡大。
- インバウンド需要の拡大を見据え、多言語に対応できるアテンダー一人材の採用・育成を推進。4月にイオン初のリゾートモールとしてオープンしたイオンモール沖縄ライカムでは英語や中国語に対応できるアテンダーを配置。

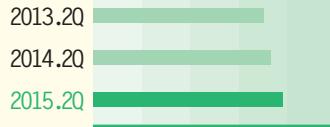
警備事業



売上高
233億79百万円
(対前年同期比106.7%)

- 商業施設の新規受託に加えて、医療関連施設に向けた独自の衛生清掃モデルにより、病院・介護施設の受託を拡大。さらに、細菌やウィルスの分析・検証機能の強化に向けた取り組みを推進。
- 現場単位の小集団活動「働きやすさ追求活動」を推進し、従業員の士気向上、及び継続的な品質改善に取り組む。

清掃事業



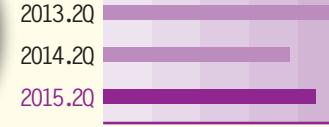
サポート事業



- (株)カジタクでは、家事代行サービスをパッケージ化した「家事玄人(カジクラウド)」の販売がネット通販を含めて好調に推移。売上高が前年同期比約1.3倍強に拡大し、同事業の売上高、及び収益性の向上に寄与。



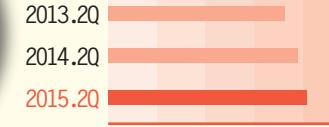
建設施工事業



- 積極的な投資を進めるお客さま施設への提案により、活性化・原状回復・省エネなどの各種工事の受託が大きく拡大。
- 安全・安心・快適、資産価値向上の観点から管理物件への定期的な保守・点検活動を通じた改善提案の推進により、各種工事の受託を拡大。見積の精査、及び適切な施工管理により収益性を向上。



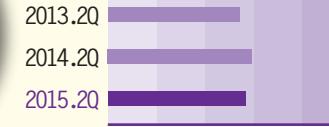
資材関連事業



- 新規の顧客開拓に加え、既存取引先の新たな需要を取り込むことで、順調に取引が拡大。
- イオンのプライベートブランド「トップバリュ」向け包装資材の受託拡大に向けて、組織体制の強化、ならびにアライアンス体制の構築に取り組む。



自動販売機事業



- 新規設置に伴う機械売上が発生した前年の反動を受けたが、猛暑の影響により中身飲料の売上が好調に推移。
- 利益構造の変革を目指し、デジタルサイネージ型自販機では従来の飲料販売に加え、動画による広告枠の提供による新たな事業モデルを構築し展開。加えて、キャラクターデザインの自販機開発など販売強化に向けた取り組みを実施。

売上高
86億73百万円
(対前年同期比118.2%)

当社が、働きがい・やりがいのある明るい職場づくりをめざし、取り組みを実施しているのが「働きやすさ追求活動」です。2014年12月より、清掃事業の職場から活動をスタートさせました。この活動は、少人数でひとつのチームを作り、改善活動を行っていく小集団活動による業務効率化、品質・安全性の向上を基本とするもの。これに加えて、当社では、なにより職場の一人ひとりが主体的にアイデアを発信し、それらが業務に直接反映されることによって、全ての従業員が働きがい・やりがいを感じる事ができる職場づくりをめざしています。

開始から間もなく一年を迎える働きやすさ追求活動。今回は、同活動において実施されてきた改善事例について、いくつか紹介いたします。

全国の仲間と改善事例を共有 「働きやすさ追求活動通信」

全国各地で生まれた好事例の水平展開を目的に各職場掲載用に毎月「働きやすさ追求活動通信」を発行しています。



● 定置管理の実施により 業務準備時間を短縮

by チーム今パリア(中四国支社 四国支店 今治センター)

改善前の問題点 資機材倉庫では必要な資機材がバラバラに置かれ、業務効率が悪く、気持ちよく働ける状態ではなかった

活動のポイント
 ■ 作業に必要な資機材の徹底した定置管理を実施
 ■ 清掃資器材の名称を誰でも分かるように掲示
 → 業務効率UP!! 気持ちよく働ける職場に



● フードコート後方業務での作業時間削減・衛生面の課題解決

by 北花田 整理整頓隊(関西支社 大阪南支店 堺北花田センター)

改善前の問題点

スーパーマーケットのフードコートではお客さまの飲み残しから発生する臭いが問題になっていた。飲み残しを処理するポリタンクの受け口が小さく洗いにくいや洗浄に時間がかかることが消臭できない要因だった

活動のポイント

■ 受け口の広いポリタンクに買い替えることで
 中が洗いやすくなり、洗浄時間を短縮
 ■ さらに、1本しかなかった飲み残しを受ける
 パイプを2本にすることで、漬け置き洗浄を
 可能に
 → 業務効率UP + 衛生課題(臭い)を解決!!



● 独自の移動式物干し台より業務効率を向上

by 茅ヶ崎中央清掃チーム
 (南関東支社 相模原支店 茅ヶ崎中央センター)

改善前の問題点

日々の清掃で大量に発生する洗濯物。バックヤードの限られたスペースでの干し場所確保は長年の課題だった

活動のポイント

■ 省サイズ・最小動作・移動性の3つの
 視点から改善策を検討
 ■ 低コストの材料(台車・可変レール・留め具)
 で移動式物干し台を開発
 → 月換算15時間超の業務時間を短縮!!



今回ご紹介した事例の他にも全国各地で日々、新たな改善事例が生まれています。引き続き、働きやすさ追求活動を通じて従業員一人ひとりが主体的にアイデアを発信し、働きがい・やりがいを感じる事ができる明るい職場づくりをめざしてまいります。

アジアでの事業拡大

アジアNo.1ファシリティマネジメント会社を目指して

当社は2007年度に中国へ進出、その後、2012年度にマレーシア、ベトナムで現地法人を設立しアジアへの進出を果たしました。

中国では各地域で地元有力企業との合併戦略を図り、堅調に事業を拡大。北京市、天津市に加え、現在までに広東省、江蘇省、湖北省へと事業エリアを拡大しています。

マレーシアでは、清掃や自販機を中心にサービスを展開。国家的な課題である省エネ需要に対応したLEDやBEMS^(※)の提供も進めています。

ベトナムでは、イオン一号店の開業に先立ち進出。主に日系企業や外資系企業に対するサービスの提供により実績を積み上げるとともに各種事業ライセンスを取得してきました。その後、2014年に開業したイオン一号店、二号店へは総合FMSを提供しています。

※BEMS：ビルエネルギーマネジメントシステム、ビルの機器・設備等を管理・制御し、エネルギー消費量の削減を図るもの。

2015年度上期の取り組みと今後の展望

中国 ガバナンス体制強化に向けた組織再編を実施

2014年度に単年度黒字化を果たした中国事業では、高品質なサービスを強みに現地のニーズに合わせた総合FMSを提供しています。2015年度上期は、事業拡大を目指した体制強化の一環として蘇州、武漢にある子会社を軸とした組織再編を実施しました。



9月にオープンしたイオンモール北京豊台

マレーシア 地元有力企業との協業により受託拡大を加速

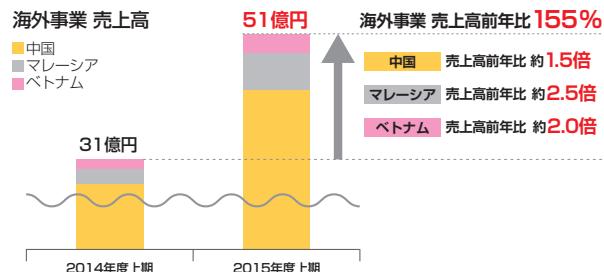
マレーシアでは、サービス供給体制を強化し、マレーシア最大級の小売業に成長しているイオン店舗の受託を拡大しました。下期以降、地元有力企業との協業により、さらに受託拡大を加速化していきます。また、グループ内外の受託拡大を図るべく、営業体制を強化してまいります。

ベトナム ハノイ支店設立により事業エリアを拡大

ベトナムでは4月にハノイ支店を設立し、事業エリアを拡大しました。今秋には、同国イオン3号店となるイオンモール・ロンビエン「イオンモール・ロンビエン」がハノイ市にオープンします。一号店、二号店に引き続き、総合FMSの提供により、同店の集客力向上に貢献してまいります。さらに、営業体制の強化により日系・外資系のグループ外顧客の受託拡大を目指してまいります。



今秋ハノイにオープンするイオンモール・ロンビエン



社名	イオンディライト株式会社 AEON DELIGHT CO., LTD.
創業	1972年11月16日
資本金	323,800万円
事業内容	総合FMS（ファシリティマネジメントサービス）事業
従業員数	3,899名 グループ合計12,087名
本社所在地	【大阪本社】 〒542-0081 大阪市中央区南船場2-3-2 南船場ハートビル 【東京本社】 〒104-0044 東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー8F
連結子会社	イオンディライトアカデミー株式会社 イオンディライトセキュリティ株式会社 環境整備株式会社 株式会社ドゥサービス エイ・ジー・サービス株式会社 株式会社カジタク FMSソリューション株式会社 イオンコンパス株式会社 株式会社ジェネラル・サービスーズ Aライフサポート株式会社 永旺永楽（中国）物業服務有限公司 永旺永楽（杭州）服務外包有限公司 永旺永楽（江蘇）物業服務有限公司 武漢小竹物業管理有限公司 AEON DELIGHT (VIETNAM) CO.,LTD. AEON DELIGHT (MALAYSIA) SDN.BHD. その他9社

取締役・監査役	
代表取締役社長	中山 一平
取締役副社長	山田 隆一
専務取締役	早水 惠之
常務取締役	家志 大二郎
常務取締役	相馬 勝
取締役相談役	古谷 寛
取締役	山里 信夫
取締役	定岡 博規
取締役	古川 幸生
取締役	神谷 和秀
取締役(社外)	佐藤 博之
取締役(社外)	藤田 正明
常勤監査役(社外)	渡部 和仲
監査役	山浦 耕志
監査役(社外)	高橋 司
監査役	津末 浩治

日経IR・投資フェア2015出展報告

当社は、2015年8月28日・29日に東京ビッグサイトにて開催された「日経IR・投資フェア2015」に出展いたしました。当社ブースでは、サービスに関する動画放映、パネル・株主優待品を配置し、事業内容・当社の業績・配当についてご説明させていただきました。また、会社説明会では、専務取締役の早水惠之より、事業紹介・当社の強み・総合FMSのポテンシャル・今後の成長戦略などについてお話をさせていただきました。



株主メモ

事業年度 3月1日から翌年2月末日
 基準日 2月末日
 (そのほか必要がある場合はあらかじめ公告いたします。)

定時株主総会 5月
 単元株式数 100株
 権利確定日 期末配当 毎年2月末日
 中間配当 毎年8月31日

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

お取扱窓口 証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や
 買取請求等株主様の各種お手続きは、原則とし
 て口座を開設されている証券会社等経由で行な
 っていただくこととなりますので、ご利用の証
 券会社等へご連絡をお願いいたします。
 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別
 口座の場合)、下記のお取扱店にてお取次いた
 します。
 なお、支払明細の発行に関するお手続きに
 つきましては、みずほ信託銀行の下記連絡
 先にお問合せください。

お問合せ先 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
 みずほ信託銀行 証券代行部
 フリーダイヤル 0120-288-324
 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)

お取扱店 みずほ証券
 本店、全国各支店および営業所
 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でも
 お取扱いたします。

※カスタマープラザではお取扱できませんのでご了承ください。

みずほ信託銀行
 本店および全国各支店
 ※トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。

未払配当金の
 お支払 みずほ信託銀行 本店および全国各支店
 みずほ銀行 本店および全国各支店
 (みずほ証券では取次のみとなります)

株式の状況 (2015年8月31日現在)

発行可能株式総数 86,400,000株
 発行済株式総数 54,169,633株
 株主数 7,159名

大株主の状況(千株未満切り捨て) 所有比率は発行済株式に対する比率です。

順位	株主名	所有株式数(千株)	所有比率(%)
1	イオンリテール株式会社	23,261	42.94
2	イオン株式会社	9,103	16.81
3	ピーエスピー パリパ セック サービス ルクセンブルグ ジャステック アビテイーン グローバル クライアント アセット	1,351	2.49
4	日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	1,192	2.20
5	イオンデライト取引先持株会	881	1.63
6	ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラアカウン	877	1.62
7	日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	682	1.26
8	イオンデライト従業員持株会	576	1.06
9	三菱UFJモルガン・スタンレー証 券株式会社	455	0.84
10	オーエム02ステートストリート808424クライアントオムニ	413	0.76

(注) 上記の所有株式数の他に、当社は自己株式1,638千株(発行済株式総数に対する
 所有株式数の割合3.02%)を所有しております。

所有者別株式分布状況



ホームページ上で公告・各種資料がダウンロードできます。

<http://www.aeondelight.co.jp/ir/>